

広野砂防堰堤

明治 28 年 (1895 年) 9 月大豪雨によりニオダン (入谷) や日野川右岸 (通称春日神社向山) の山腹が崩壊し、大量の土砂が流出一時日野川を充塞する災害が発生しました。村人は春日神社に災害を封じ込める祈禱をしたと伝えられています。付近の山岳は尾濃震災の影響を受け多少崩壊の徴候があるうえに、山林の濫伐、焼き畑の流行があつて山地は荒廃していました。福井県は明治 36 年 (1903 年) 度砂防工事を施工しました。空石積堰堤、床張工のほか積苗、苗木、筋萱、山腹石垣、護岸石垣など総工費は 2,726 円でした。(参考 福井県砂防沿革大要)

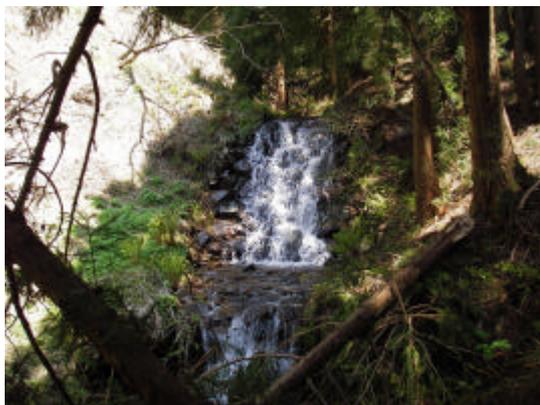


ニオダン砂防上堰堤 延長 30.4m
平均高さ 3.8m 馬踏/敷幅 2.7m/10.4m
雑木や雑草で覆われていますが、手入れすることで壮大な明治の歴史的砂防堰堤の全容が観られます。天端には大きなスギが数本生えています。住民の松田清さん (80 歳) は「大風や大雪で揺さぶられ、倒木によって堰堤が損なわれる」と心配しています。

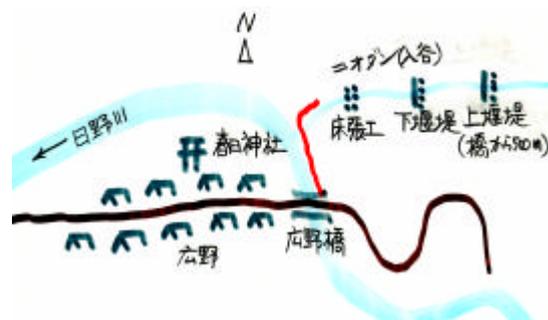
雪でたくさんの倒木がそのままになっています。また、下堰堤床張り先の裏がえぐられて空洞になっています。松田さんは「次の豪雨で更に掘られ床張が陥没流失すると堰堤が崩壊しないかと心配です。村の人に呼びかけ、村を守ってくれた明治の砂防施設を保全し保存していきたい」と言っています。



ニオダン砂防床張工 延長 18m



ニオダン砂防下堰堤 延長 18.2m
平均高 4.2m 馬踏/敷幅 2.7m/11.2m
この堰堤天端にも大きなスギが数本生えています。福井豪雨と昨年からの豪



2006 年 4 月 29 日撮影 Y.TANAKA
2006 年 5 月 16 日
日野川流域交流会 田中保士